

月例経済報告等に関する関係閣僚会議資料

平成13年3月16日
内閣府

< 我が国経済の基調判断 >

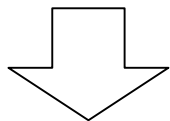
景気の改善に、足踏みがみられる。

- ・アメリカ経済の減速から輸出が減少し、それに伴い、生産がこのところ弱含んでいる。
- ・失業率はこれまでの最高水準で推移し、個人消費はおおむね横ばいの状態が続いている。
- ・企業収益や設備投資は増加しており、自律的回復に向けた動きは続いている。

先行きについては、アメリカ経済の減速や設備投資に鈍化の兆しなど、懸念すべき点がみられる。

< 政策の基本的態度 >

政府は、経済を自律的回復軌道に確実に乗せるため引き続き景気回復に軸足を置きつつ、我が国経済を21世紀にふさわしい構造に改革する。



引き続き平成12年度補正予算等の着実な実施を図る

平成13年度予算の早期成立に努め、新年度における適切な執行を図る

政府・与党緊急経済対策本部を発足

日本銀行においては、無担保コールレート（オーバーナイト物）の誘導目標を0.25%から0.15%に引き下げるとともに、公定歩合を年0.35%から年0.25%に引き下げた。